

授業公開

1. 企画趣旨・目的

教育の質向上を目指す諸活動の一環として、例年実施されている教員相互の授業公開を令和7年度も実施した。

教員相互で授業を見学することにより、各教員の授業の改善・向上を図るとともに、本学のディプロマ・ポリシーとの関連を明確にし、指導と評価の一体化を図る機会とすることを旨とする。本学での学生の学びを可視化すること、科目同士の関連や到達度に配慮した授業展開に向けて、学生が身につけるべき三つの資質・能力と、第四次教育体制において新全学ディプロマ・ポリシーに謳われる教育評価の三要素の対照マトリクスにおける9観点を授業見学の視点とした。

2. 実施概要

- ①見学期間（事前に授業担当者と交渉することで期間外の見学も可能）

2025年6月4日（水）～12月22日（月）

*昨年度と同様に学科ごとの授業公開・見学期間は撤廃して実施した。

- ②見学対象科目 原則、すべての授業科目が対象。

*1つ以上の授業を見学する。

*「英語コミュニケーション応用」は見学対象外とする。

3. 見学記録の結果

参観者数について

のべ73名の参観者数であり、昨年度より36名減少した（専任教員52名、非常勤教員3名、職員18名）。昨年度の授業公開と同様、今年度は前期からの実施としたが、好評であった。今後も通年で公開を基本とすることを提案する。

見学・参観科目の領域とディプロマポリシー（9観点）について

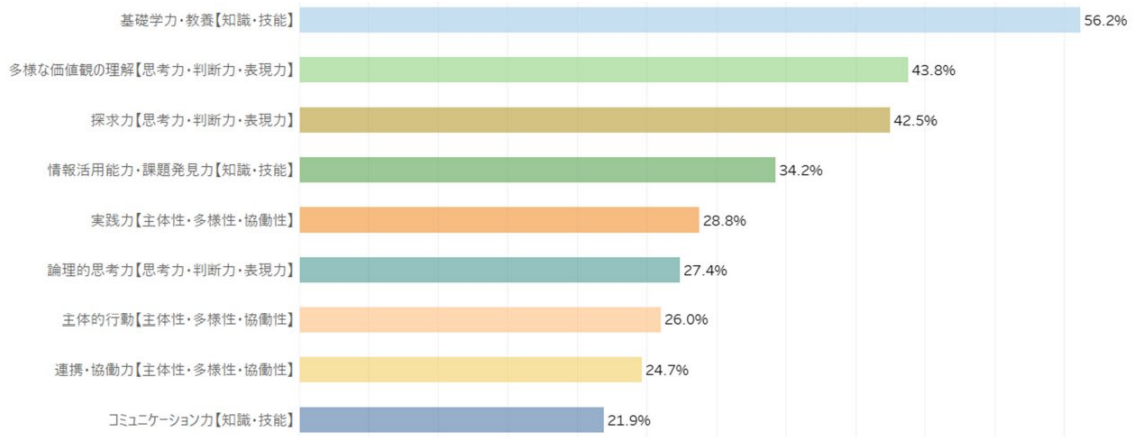
見学・参観科目の領域内訳と重点的に指導されていると思った資質・能力（3つ選択）についてグラフで示す。共通科目および児童教育学科、社会情報デザイン学科の専門科目の見学・参観が多かった。前期から実施したことで、長期間の授業見学が可能となりよいという意見が多く見られた。学科専門科目については、授業形態（演習、講義、実験・実習）までは示されていない。重点的に指導されていると思った資質・能力（3つ選択）と、各授業科目のシラバスに示されたディプロマ・ポリシーを比較することで、より具体的な到達目標の検討や学生の実態に即した学びの可視化に結び付くものと考えられる。

科目の領域内訳

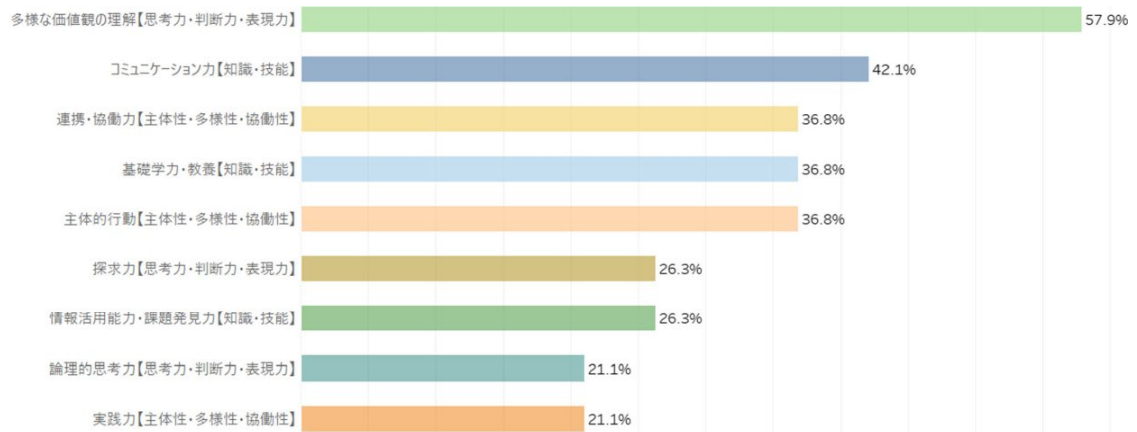
※青字：共通科目（19） 赤字:専門科目（54）

共通科目	19
教職課程	4
司書課程	1
健康栄養学科	6
食物栄養学科	5
食品開発学科	1
人間福祉学科	4
幼児教育学科	2
児童教育学科	11
心理学科	6
文芸文化学科	4
社会情報デザイン学科	10
総計	73

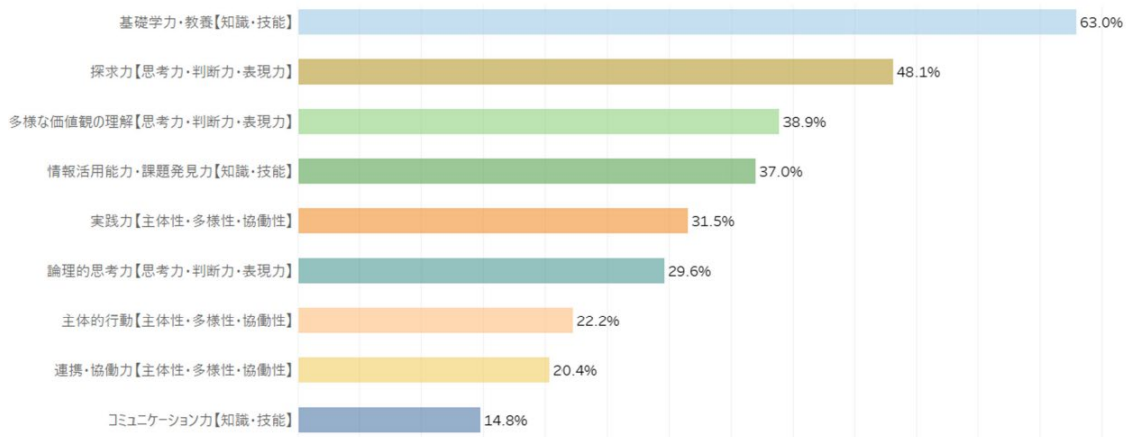
見学した授業で重点的に指導されていると思った資質・能力（3つ選択）
全体（73）



（共通科目） 19



（専門科目） 54



《授業見学者が挙げた良い取り組み》

以下では授業見学者による報告書の記述に基づいて進めていく。

よい取り組みとしては、学生のコミュニケーション、話し合いについて触れられたものとして、コミュニケーションに長けたものとそうでないものが共に参加しやすい雰囲気づくり、学生同士のペアワークを行うことで学生同士のフィードバックによりお互いが学んでいく方法、などが挙げられていた。

よい教授法として、既成概念を問い直す問いかけ、一つの物事の様々な視点からの検討、統計などを調べさせることにより学生に自ら問題を発見させる授業、学生が身近に感じやすい内容を取り上げること、学生同士を向かい合わせにすることで意見を交換しやすい座席配置、クイズ形式で考えさせマイクで当てることにより能動的に考えざるを得ない状況を作ること、講義・個人での学習・グループワークの組み合わせ、グループ分けをその都度行い固定したメンバーでの発表を避けること、語りかけの優しさ、許容する言葉をかける、集中力が途切れてきたタイミングでの意見交換や映像使用、授業の最初に興味を惹きつける話題を提供する・前回授業のリアクションペーパーフィードバックを行う、などが挙げられていた。

学生の様子として、真剣に参加し教員の問いかけに反応する、積極的に取り組んでいる、発表者の内容・チームワーク・堂々とした表情や声、等が挙げられていた。

授業公開・授業見学の意義

教員は専門分野に関する知識を有するが、教授法・教育方法についての教育を受けている者は少ない。他の教員の授業を見学することにより客観的視点から授業をとらえること、学生目線から授業をとらえることが可能になる、また授業公開後に行われる授業見学報告書のフィードバックによって、第三者の視点からの自分の授業に対するコメントを得ることができる。様々な授業の長所・短所を比較検討することで自分の授業に必要な情報を得ることができる。こうしたことにより授業の質の向上が見込まれる。

また、本学では職員にも授業公開を行っている。大学の職員といえども大学の授業を最初から最後まで見学する機会はほとんどないと言ってよい。職員は学生、そして教員からの様々な要望や不満に接する機会も多い。その際に実際に授業を見学し、授業内容や授業の流れを把握していれば学生、そして教員の要望等に対して一定の理解した上での対応が可能になるであろう。これは大学の活性化にもつながる。